

がん検診のさらなる受診率向上を図る デーモン閣下も受診を呼びかけ

みんなで取り組む
広島県の
「がん」
対策

③ 予防と検診②

広島県では、がん検診受診率50%以上(H28年度を目標に、県民の意識段階に応じた受診率向上対策に取り組んでいます。

①検診に関心を持つ、②正しい理解や知識を深める『普及啓発』、③実際の受診行動を後押しする『個別受診勧奨』、④受診に向けた環境整備を進める『受診しやすい環境づくり』の取り組みです。

普及啓発については、官民協働組織「がん検診へ行くよ」推進会議を中心に、全県的な啓発キャンペーンを展開しています。広島県がん検診啓発特使に「デーモン閣下」を起用し、ポスターやチラシ、イベント出演等を通じて、インパクトのあるメッセージで受診を強力に呼びかけています。

がん検診受診率

部位	胃	肺	大腸	子宮	乳
広島県	40.5% (23位)	41.3% (30位)	37.2% (29位)	43.9% (19位)	43.0% (26位)
全国	39.6%	42.3%	37.9%	42.1%	43.4%

【出典】平成25年国民生活基礎調査(厚生労働省)

【備考】1.「平成25年国民生活基礎調査」結果から得られる数値により、広島県が独自に受診率を算出。
2.胃・肺・大腸については過去1年以内、子宮・乳については過去2年以内の受診状況を表す。

「デーモン閣下」は、がん検診の受診を呼びかけるポスターの中心人物です。このポスターは、がん検診の受診を呼びかけるポスターの中心人物です。このポスターは、がん検診の受診を呼びかけるポスターの中心人物です。



がん検診の受診を呼びかけるデーモン閣下のポスター

次の段階の「がん検診を受ける」という現実の行動につなげるには、対象者一人ひとりに向けたきめ細かな取り組みが欠かせません。このため、未受診者の方への再勧奨など、市町が行う個別受診勧奨の取り組みを積極的に支援するほか、地域や職域のボランティア「がん検診推進員」、身近なかかりつけ医や薬剤師といったさまざまな立場の方にご協力いただき、日常の生活の中での対面での受診勧奨を推進しています。

また、市町のがん検診情報を県HP「広島がんネット」で一元



③ 主原因は何？

今回は、温室効果ガスと地球温暖化との関係について述べている部分をIPCC第5次報告書からみてみます。

報告書では、『二酸化炭素の大気中濃度の増加が、温暖化に最も大きく多く寄与。』と記述されています。

二酸化炭素に代表される温室効果ガスの増加により、地球温暖化が進行していく過程は難しいです。今回は映画にもなりましたノーベル賞受賞者でもあるアメリカのゴア元副大統領が、温暖化について説明している「不都合な真実」の一部分を紹介いたします。

『地球を暖めに来た太陽からの使者(太陽光)が、役目を終えて、宇宙に返っていくとき、温室効果ガス兵士に捕まってしまう。逃れようと戦いますが、戦い敗れて、地球上で倒れていきます。』倒れた使者の数は、地球温暖化の進行を意味します。温室効果ガス兵士は、増えれば増えるほど、その戦闘能力を増します。すなわち、地球温暖化の進行は、人類が社会生活を営むためにエネルギーとしている化石燃料から生まれる二酸化炭素の増加が主たる原因となって、地球から宇宙に帰る熱を地球に閉じ込めることによって起きているのです。

上図を見てください。タイトルに「放

射強制力」と聞きなれない言葉があります。これは値が高いと地球温暖化の進行に寄与します。過去100年前から現在まで、各物質の変化をみると、二酸化炭素を示す桃色の面積が放射強制力に大きく寄与していることがわかります。

図の赤線が人為起源の放射強制力で、それに自然からの起源を加えると「合計の線」(下に向かってギザギザの尖った部分が目立つ線)になります。この下向きに向いている尖った線は、火山活動から生じる火山灰などの塵が太陽光を

遮ることが主な原因なのですが、降水などによって、短期間で除去されます。結局、100年くらいのスケールで考えれば、二酸化炭素の大気中濃度の増加が温暖化に最も多く寄与しており、人間の現在の活動が、着実に温暖化を進めていることをこの図は意味しているのです。

「太陽活動と地球温暖化は関係あるのでは?」という質問をよく受けます。この図から太陽放射の変化は少なく、ほとんど寄与していないことが分かります。ここまで地球温暖化の実態とその原因についてお話ししました。今回は、地球温暖化によって、地球上ではどんな変化が現れているかについてお話しします。

(広島地方気象台 観測予報課 岡崎賢治)

人間の活動が温暖化の進行に寄与 二酸化炭素の増加が主たる原因

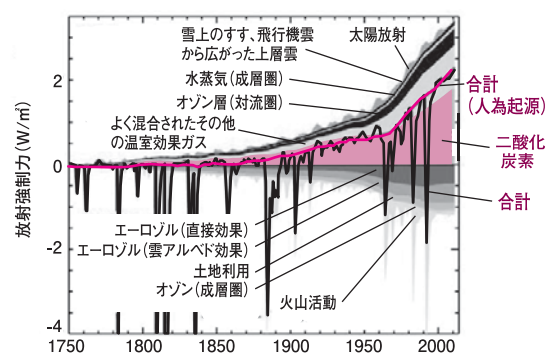


図 放射強制力(1750～2011年)



①安芸高田市公衛協甲田支部
【資源物の集団回収】



回収したアルミ缶を洗浄

安芸高田市甲田町では、約15年前から空き缶など、資源物の集団回収に力を入れている。物があふれる現代、暮らしが

豊かになると同時にごみの量が増えていることに着目し、そのごみは本当にごみなのかを考慮し、地域ぐるみで削減に取り組んでいる。ごみと処理すれば、処理する

この取り組みを積極的に進めているのが、安芸高田市公衆衛生推進協議会甲田支部である。甲田支部では、毎月第一日曜日に資源物の集団

からキロ当たり10円の助成金が出ており、2年間の収入は数十万円になる。そこで得た収入は、回収した資源物の重量により配分金を決定して地域に還元し、草刈

甲田町で資源物の集団回収 住みよい町を自らの手で

するための費用がかかるうえ、環境への負荷がかかる。このため、きちんと分別し、資源物を可能な限りリサイクルすることにより、環境の保護とごみ処理費用の削減を図って

回収を行っており、回収量は平成25年度実績で約75トとなっている。回収した資源物は適正に分別され、リサイクルされている。また、資源物の集団回収に対して、市

りなどの地域の活動資金に活用されている。この仕組みは、ごみの量を減らし、地域の活動資金を増やすと同時に地域住民の資源物回収への積極的な参加へとつな

安芸高田市公衆衛生推進協議会長兼甲田支部長の前川氏也さんは、「地域で回収される資源物は大量で、作業もかなりの労働になる。それでも、資源物の回収は続けていくべき。きれいで住みよいまちづくりのため、これからも積極的に活動を続けていきたい。」と語っている。

(地域活動支援センター)